

沖縄市北部川崎川支流の上流部にある湿地帯等の令和6年度の有機フッ素化合物
調査結果について

経緯・目的

- 県のこれまでの調査で、沖縄市北部にある産業廃棄物最終処分場内に溜まっている水等から高濃度のPFOS等有機フッ素化合物（以下、「PFOS等」という。）が検出されたため周辺河川の調査を実施したところ、川崎川（天願川の支流）の当該処分場から離れた下流側の地点において、他の地点と比較して高い濃度で検出された。
- 当該処分場とは別に何らかの汚染源があることが示唆されたことから、川崎川支流の上流部にある湿地帯の汚染状況を把握するため、令和4年2月に湿地帯内8地点でPFOS等の調査を実施したところ、7地点で環境省が定めた暫定指針値（※）である50ng/Lを上回る濃度のPFOS等が検出された。
（※令和7年6月30日付け環境省水・大気環境局長通知において、「暫定指針値」から「指針値」へ取扱いの見直しが行われた。）
- 令和5年1月、湿地帯内7地点、周辺河川6地点で調査を行ったところ、湿地帯西側の地点で濃度が高くなっていること等から、汚染源となるPFOS等は湿地帯西側からの表流水、あるいは地層中や旧谷地形（埋没谷）の底部を流れる地下水が湿地帯に湧き出すことによってもたらされている可能性が高いことがわかった。
- 令和6年2月、湿地帯3地点、周辺河川1地点及び地下水1地点の合計5地点でPFOS等の調査を行ったところ、4地点で暫定指針値を上回る値が検出され、最も濃度が高かった地下水中からは、11,000 ng/Lが検出された。
- 令和6年度は、令和6年2月の調査地点に地下水等の調査地点を3地点追加して調査を行った。

結果

- 調査結果は下表のとおりで、調査した8地点中7地点で暫定指針値を上回る値が検出され、最も濃度が高かったのは、埋没谷に設置した観測井戸から採取した盛土層内保有水の24,000ng/Lであった。

表. 調査結果一覧（採水日：令和7年1月8日）

調査地点		PFOS	PFOA	PFOS + PFOA	PFHxS	6:2FTS
地下水		300	180	490	1,100	100
		1,000	550	1,500	2,600	230
		180	250	440	890	410
盛土層内保有水		23,000	1,000	24,000	2,000	1,500
湿地帯	地点番号B	3,600	470	4,000	2,000	280
	地点番号D	1,300	470	1,800	930	400
	地点番号Q	21	3	25	3	8
周辺河川	地点番号8	570	260	830	1,100	260

※単位（ng/L）

※PFOS+PFOAの値は、数値の丸めの関係で合計値の和と一致しない場合がある。

今後の対応について

- 今回の調査結果について、関係機関との情報共有・連携を図りながら、湿地帯のモニタリングを継続し、汚染源の特定に向けて取り組む。